

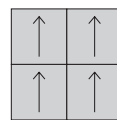
スポーツラバータイル施工方法

施工のポイント

[向き]

- 流し貼りを推奨しています。
市松などバラバラに貼るとジョイント部分がきれいに合わず、隙間が多くできてしまいます。

- ▲ 商品の向きを揃えると材料の向きが同じになり、隙間が少なくなります。
(商品の裏面に矢印があるので向きを合わせてください。)



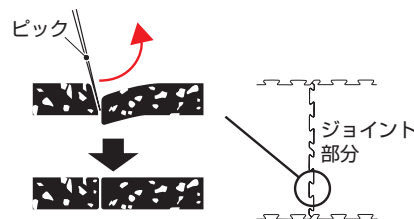
流し貼り



[ジョイントの隙間・接合部]

- ゴムハンマーでジョイント部分に寄せ付けて隙間を無くします。
接合部分が押し潰れると段差や浮きの原因となるため、ピックを使い潰れた部分を押し上げて整えてください。

- ▲ ゴムの伸縮によりジョイント部に隙間が生じます。
隙間が気になる場合、液状ゴムで隙間を埋めていただくことをおすすめします。



[接着剤] ※プラジョイントタイプは除く

- 接着施工の場合、ウレタンボンド(AB-500U)をご使用ください。非推奨の接着材を使用した場合、床材の浮きや反りが生じる場合がございますのでご注意ください。

施工手順

1. 下地の点検

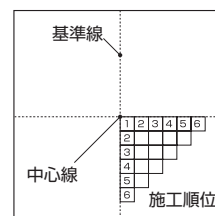
- 下地の善し悪しによって仕上がりが左右されます。下地の点検を行い、不備のないようにしてください。

点検項目	チェックポイント	起き得る問題
① 平滑さ 	下地に不陸や目違い、段差、クラックなどがないか。	接着剤が均一に塗布されず、接着不良、ふくれなどが発生。
② 乾燥 	下地の含水率が水分計で測定して、8%以下であるか。 木質下地の場合、合板は1類以上の耐水性のあるものを使用してください。	下地が十分乾燥していないと、どのような接着剤でも接着不良を起こす。
③ 強度 	モルタル下地で表面の粉ふきや浮きがないか。木質下地でしみやたわみがないか。	施工後に、床材の剥離や浮きなどが発生。
④ 汚れ 	ホコリ、油、ペンキなどの下地の汚れが完全に取り除かれているか。	施工後に、床材の剥離や浮き、変色などが発生。

※床暖房下地への施工はお避けください。

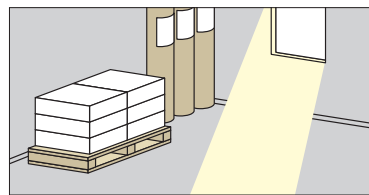
2. 割り付け・墨出し

- 施工現場を実測し、割り付け図をもとにして、割り付け、墨出しをします。
 - ① 施工する部屋の中心を基準にして、直角に交わるタテ、ヨコの基準線を墨出しし、部屋を4区分します。出入口、廊下、壁面などには極端に小さなカットが入らないように、中心点を調整して割り付けてください。
 - ② 基準線に沿って基準タイルを施工します。
 - ③ 施工はピラミッド工法のようにすすめてください。



3. 材料保管

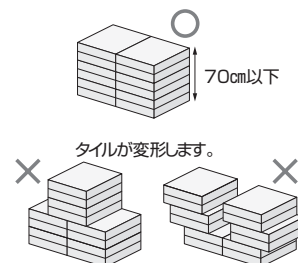
- 材料保管の善し悪しによって仕上がり状態が左右されます。
ゴム系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬季の保管管理は重要です。
- ①乾燥した平坦な室内に保管し、直射日光は避けてください。
- ②室内温度10～25℃、湿度75%以下での保管が最適です。
- ※ゴム系床材は温度変化により多少の伸縮があります。



4. 養生

▲ゴム系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬季の養生管理は重要です。養生を十分に行わずに施工しますと、施工後温度差による材料の伸びによって突き上げなどを起こします。

- 10℃以上に保たれた室内の平滑な場所でタイルを箱から取り出して、表面を上にして2日間程度積み重ね、クセを取り除いてください。特に冬季はクセが取れにくいので、必ず箱から出してください。



5. 接着剤塗布

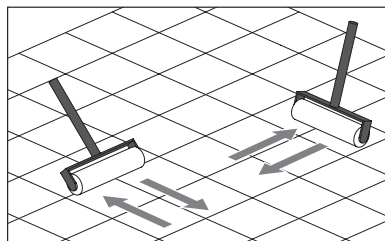
- 接着剤はアドヴァンの専用接着剤を推奨します。(ウレタンアドボン AB-500U)
- 使用前に接着剤の容器に記載されている事項をご参照ください。
- 木下地など通気性の少ない下地は接着剤の溶剤が抜けにくいいため、残留溶剤によるゴムタイルの伸びを引き起こし、施工後の突き上げを発生させることがあります。その場合は、接着剤の塗布量を標準より少なめにし、オープンタイムを長めにとってください。
- アドヴァン専用接着剤以外の接着剤をご使用の際のクレーム等はお受けできません。
- クッションフロアなどの既存床の上に重ねて施工しないでください。施工後、突き上げ、剥離などの問題が発生することがあります。
- 施工は専門業者にご依頼ください。

専用接着剤

下地
木下地／モルタル・コンクリート下地 (含水率8%以下)
接着剤
ウレタンアドボン (AB-500U)

6. 貼り付け・圧着

- 墨に沿って中心点から貼り、目違い、目地ずれのないように、ハンドローラー等で圧着しながら貼り付けます。
- 100ポンドローラー (約45kg) にて転圧し、塗布した接着剤のクシ目の糊山をつぶしてください。タイルと下地をしっかりと接着させるため、ローラーがけは一方方向だけでなく縦横に十分転圧してください。特に壁際などの周辺部はハンドローラーで入念に圧着してください。



- ▲ゴムタイルは、急激な温度変化によって伸び縮みする性質があります。また、接着剤は低温ですと硬化が遅れ、温度が変化した時の材料の伸縮を抑えるだけの接着力が得られないため、突き上げなどの原因になります。さらに、店舗など窓の大きい場所付近に施工する場合の直射日光や冷暖房による急激な温度変化にも十分注意してください。壁際などの端部は、隙、浮きのないように納まりよくカットし、ハンドローラー等で入念に圧着してください。圧着不足は接着不良につながり、後日突き上げ、剥離などを引き起こす原因になります。

メンテナンス



- 日常の掃除は、ホウキ、掃除機などでホコリや塵を除去し、固く絞ったモップ、雑巾等で水拭きしてください。



- 汚れがひどい場合は中性洗剤などをうすくとかし、雑巾等で拭き取った後、水拭きします。

▲洗浄の際、水を大量にまくと目地の間から水が下地にしみ込み、剥離の原因となります。

[床材を長持ちさせるために]



- 外部からの土や砂の持ち込みは、床材表面を傷つけて摩耗を早めるなどの原因になります。出入り口にはマット類などの設置が必要です。



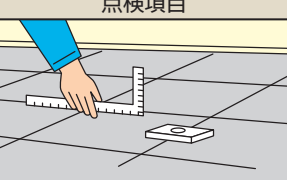
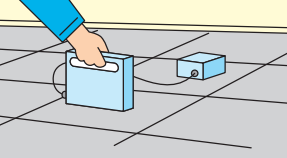
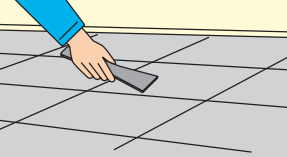
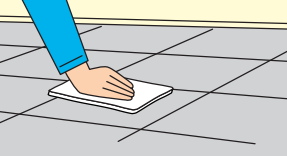
- 傘などからの雨水は、目地や継目から水分が浸透し、剥離の原因となります。出入り口にマット類、傘立て等を用意してください。雨水が持ち込まれた時は、直ちに除去するようにしてください。

スポーツラバーロール施工方法

施工手順

1. 下地の点検

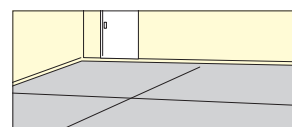
下地の善し悪しによって仕上がり状態が左右されます。下地の点検を行い、不備のないようにしてください。

	点検項目	チェックポイント	起き得る問題
① 平滑さ		下地に不陸や目違い、段差、クラックなどが ないか。	接着剤が均一に塗布されず、接着不良、 ふくれなどが発生。
② 乾燥		下地の含水率が水分計で測定して、 8%以下であるか。 木質下地の場合、合板は1類以上の耐 水性のあるものを使用してください。	下地が十分乾燥していないと、どのよ うな接着剤でも接着不良を起こす。
③ 強度		モルタル下地で表面の粉ふきや浮きが ないか。木質下地できしみやたわみが ないか。	施工後に、床材の剥離や浮きなどが 発生。
④ 汚れ		ホコリ、油、ペンキなどの下地の汚れが 完全に除去されているか。	施工後に、床材の剥離や浮き、変色な どが発生。

※床暖房下地への施工は避けください。

2. 割り付け・墨出し

●施工現場を実測し、割り付け図をもとにして、割り付け、墨出しをします。

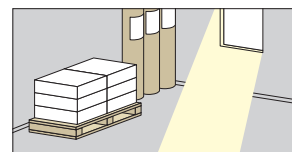


3. 材料保管

●材料保管の善し悪しによって仕上がり状態が左右されます。

ゴム系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬季の保管管理は重要です。

- ①乾燥した平坦な室内に保管し、直射日光は避けてください。
- ②室内温度10～25℃、湿度75%以下での保管が最適です。
- ③床シートは垂直に立てて保管してください。
- ④床シートの耳の部分がつぶれたり、変形しないように注意してください。



4. 材料確認

●品番・ロット番号を確認し、同一場所に他のロットのものが混在しないようにしてください。

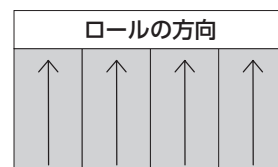


5. 養生

●ロールの方向を確認します。

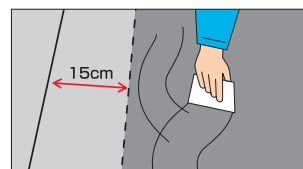
●5～10cmの余分を計算に入れて、床シートを粗切りします。

●この状態で、10℃以上に保たれた室内に床シートを少なくとも24時間仮敷きして、室内温度になじませ、巻きグセ、伸縮などを取り除いてください。



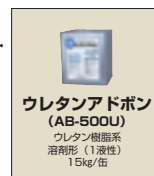
6. 接着剤塗布

- 墨から15cmずつの幅を残して接着剤を塗布します。床シートを重ね切りした後、その部分に接着剤を塗布し圧着します。
- 接着剤はアドヴァンの専用接着剤を推奨します。
- 使用前に接着剤の容器に記載されている事項をご参照ください。
- 木下地のような通気性の少ない下地は接着剤の溶剤が抜けにくいいため、残留溶剤による塩ビタイルの伸びを引き起こし、施工後の突き上げを発生させることがあります。その場合は接着剤の塗布量を標準より少なめにし、オープンタイムを長めにとってください。
- アドヴァン専用の接着剤以外の接着剤をご使用の際のクレーム等はお受けできません。
- クッションフロアなどの既存床の上に重ねて施工しないでください。
- 施工は専門業者にご依頼ください。

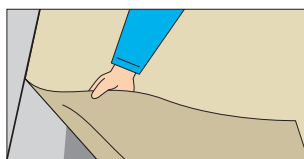


下地

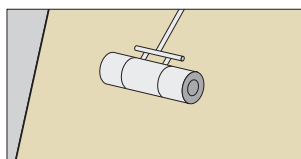
木下地 / モルタル・
コンクリート下地
(含水率 8% 以下)



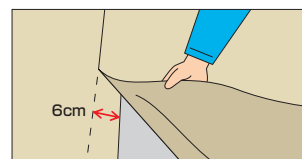
7. 貼り付け・圧着



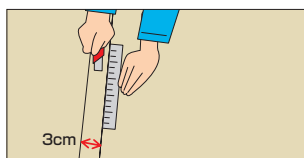
①墨に沿って貼り始め、空気を押し出しながら貼り付けます。



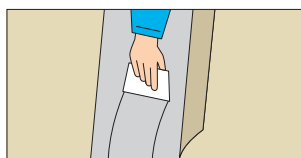
②45kg以上のローラーなどで中央から継ぎ目に向かって残った空気を押し出すように圧着します。



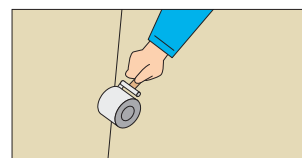
③継ぎ目は6cm重ねます。
注) ロスは材料代に含まれておりません。



④端から3cmのところに定規をあて、重ね切ります。



⑤重ね切りした部分の床シートを持ち上げ、下地に接着剤を塗布し、オープンタイムをとってから貼り付けます。



⑥ハンドローラー等で入念に圧着してください。

⚠ 圧着不足は接着不良につながり、後日突き上げ、剥離などを引き起こす原因になります。

メンテナンス

[日常の掃除]

- 日常の掃除は、ホウキ、掃除機などでホコリや塵を除去し、固く絞ったモップ、雑巾等で水拭きしてください。

[汚れがひどい場合]

- 汚れがひどい場合は中性洗剤などをうすくとかし、雑巾等で拭き取った後、水拭きします

